

# 社会貢献活動（地域ボランティア活動）の実施報告

（一社）前橋林業土木協会

活動内容	【栃木】奥日光国有林（西ノ湖付近）で古いシカ防護柵を撤去
1 実施年月日 2 実施場所 3 参加会員数 4 活動内容	<p>1 実施年月日 : 令和5年11月28日（火）</p> <p>2 実施場所 : 栃木県日光市日光 字奥日光山国有林1031い林小班内 日光森林管理署管内</p> <p>3 参加会員数 : 栃木支部 会員企業8社及び事務局 18名 日光森林管理署 9名 計27名</p> <p>4 活動内容 日光森林管理署は日光市内に位置し、6市町（日光市、宇都宮市、足利市、佐野市、鹿沼市、益子町）の国有林約8万5千haを管理しています。 活動を行った奥日光国有林内の周辺には、中禅寺湖や戦場ヶ原、西ノ湖などがあり、春から秋まで多くの観光客が訪れる観光地となっていますが、当該地域では1990年代よりシカが増加し、森林植生に大きな影響を与えています。 作業は、新しいシカ防護柵が設置された内側の古い防護柵延長約500mの撤去で、この作業をボランティア活動で行うことになりました。 当日は、徳川浩一日光森林管理署長から、シカの食害から森林を守るための防護柵による管理の必要性及び本奉仕活動への感謝の御挨拶と、櫻井森林情報管理官より作業指導を受けた後、4班に分かれてネットをハサミやカッターで切断、支柱とアンカーをバールやハンマー等を使って撤去して集めた資材を、西ノ湖吊り橋付近の集積場所に一輪車などで運搬し、そこからトラックに積み込み日光森林管理署まで運搬しました。 支柱やアンカー撤去は想像より重労働ではありましたが、予定時間内に無事作業を終了することができました。 当支部では、今後もこのような地域に根差した有益な活動を続けたいと考えています。</p>
活動写真	集合写真
	
(現地作業後／西ノ湖吊り橋付近)	

開会（玉木支部長の挨拶）



徳川日光森林管理署長の御挨拶



防護柵撤去作業





代表者による鉄入れ式

山中会長は「春は菜の花で一面が黄色く染まる乙女河岸に架かる乙女大橋は、架設から68年が経過。安全性の確保に加え、頻発する自然災害への備えから架け替えが決定した。多くの関係者の協力で工事が実現することを感謝したい」とあいさつ。

板橋一好県議会議員は「右岸側の生井、寒川地区



齋藤



浅野市長



坂井

の住民には生活を支える重要な橋。近年は交通量が増加し、大型車のすれ違いが困難な状況。完成当初の道路規格は現状には合わない。橋の重要性や将来性を

協部 土支 橋木 前

# 日光でシカ防護柵を撤去

## 西ノ湖付近の国有林で奉仕活動



玉木支部長



徳川署長

前橋林業土木協会板橋木支部(玉木茂支部長)は28日、日光市の西ノ湖付近の国有林で獣害対策ボランティアを実施した。会員企業と林野庁日光森林管理署から27人が参加。シカ防護柵の撤去作業を行った。

支部から会員8者18人が参加。作業場所に近い西の湖吊橋付近で玉木支部長(前橋林業土木協会副会長)は「奉仕作業は2021年度から3年連続の実施となった。皆さんの協力に感謝している。事故に気を

つけて安全第一で作業をお願いします」とあいさつ。作業では新しいシカ防護柵が設置された内側の古い防護柵延長約500mを撤去。参加者は4班に分かれ、ハンマーなどを使って支柱とアンカーを抜き、ネットをはきみて切断。集めた資材を西の湖吊り橋付近の集積ポイントに一輪車などで運搬し、トラックに積み込んだ。人力によるハードな作業を約2時間続け、計画した撤去を完了させた。



支柱やネットを撤去する参加者

た。作業には日光森林管理署の徳川浩一署長をはじめ職員も参加。徳川署長は作業

箇所について「日光の奥座敷と言える隠れた観光の名所。木々の根本はシカやクマの食害が出ており、森林

を守るためにシカ柵による管理が必要となっている。作業を通じてコミュニケーションを図るとともに、選ばれる森林土木の一助となれば」と述べ、奉仕活動に対する感謝の言葉を送った。

板木支部は会員数8者。日光、塩那森林管理署管内で年1回、交互に獣害防除対策のボランティア活動を実施している。22年は塩谷町、21年は日光市で食害防止シートを樹木に巻き付ける作業などを行った。

▽那須土木▽谷黒組▽村土建▽磯部建設▽東武建設▽相良建設▽山田組▽大間々林業

▽電子機器 宮拓務(関東)

TDB宇都宮

# 「健康経営」65.9%

## 健診や労働時間改善が上位

帝国データバンク(TDB)宇都宮支店は、健康経営に対する県内企業の意識調査結果をまとめた。健康経営に取り組んでいる企業は65.9%を占め、全国平均を9.0ポイント上回った。具体的な内容は「定期的健康診断」「喫煙対策」「感染症対策」「労働時間の改善」「メンタルヘルス対策」が上位に並んだ。従業員は健康経営を経営的な視点で捉え、健康経営を重視する企業が増えている。従業員への健康投資は

社内の活力や生産性向上につながる。結果的には業績がアップするという考えに基づく。働き方改革が叫ばれて久しい中、健康経営に初めてスポットを当てた。建設は「メンタルヘルスによる離職は経営上の大きなリスク。外部健診を導入し、従業員の变化を把握」36協定を厳守。2024年問題への対応は待ったなし。会社を挙げて取り組んでいる」「従業員の健康維持は企業の責任という認識に変化した」と回答した。上位は「定期健康診断」が87.1%、「喫煙対策」が49.4%、「感染症対策」が43.5%、「労働時間の改善」が38.8%、「メンタルヘルス対策」が35.3%、「産業医の選任」が31.8%、「がん・

人間ドック等導入」「健康数4%。一方で「取れない」企業は24%は「適当な人難」が48.4%。な方法が分からない」「効果が不明」9%、「経費が32.3%」「経費が低い」が25%だった。取り組んでいない意識が追い付いていない。業績確保を最

### 技能五輪 全国大会

### 金賞に

第61回技能五輪全国大会で、県選手団から13人が入賞し栄誉に輝いた。建設業関連では、金賞を配管の石井悠貴氏(関電工北関東・北信越営業本部板橋木支店)が受賞した。

◇金賞  
▽配管II石井悠貴氏  
工北関東・北信越営業本部板橋木支店  
▽理容II月見一太郎氏(アトリエ美)

大会に出場した本県選手は17職種48人。金賞を2人、銀賞を1人、銅賞を4人、敢闘賞を6人が獲得した。併催の第43回全国アピリンピックでは、銀賞を1人、銅賞を2人、努力賞を2人が受賞した。

◇銀賞  
▽理容II遠藤ユウテイ氏(アトリエ美)  
◇銅賞  
▽プラスチック田海成(本田)  
事業本部四輪

受賞者は次の通り。【第61回技能五輪全国大会】